

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等

## 【類型 I】

## 1. 実践校について

実践校名	(とんだばやししりつだいいちちゅうがっこう) 富田林市立第一中学校		
学科名	児童・生徒数	学級数	
	334	15	

## 2. 実践研究の対象

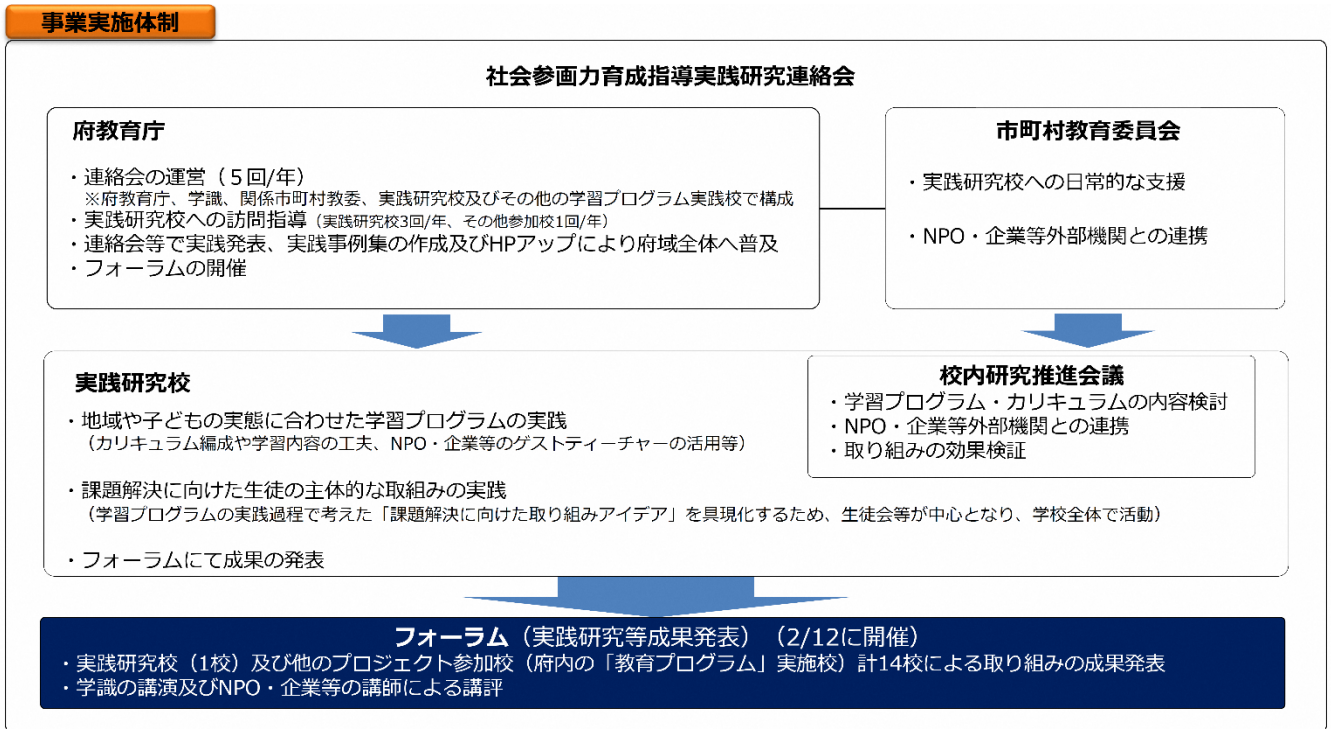
第1学年・105名・3学級

## 3. 実践研究の実施経過

	大阪府教育庁	富田林市教育委員会	実践研究校
4月	(4/21) 社会参画力育成指導実践研究連絡会①		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践校・市教委打合せ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践校の取り組み支援及び指導助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの計画と企画立案</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業開始</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの実施 (SDGs について)</li> </ul>
6月	(6/23) 社会参画力育成指導実践研究連絡会②		
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活用できる教材や連携できる NPO の情報提供</li> <li>・実践校への訪問指導① (6/30)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材等のマッチング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方との連携</li> <li>・平和についての学習 (ゲストティーチャー) (7/14)</li> <li>・2 学期以降の取り組み検討</li> </ul>
8月			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学習・調査活動の内容検討</li> </ul>
9月	(9/3) 社会参画力育成指導実践研究連絡会③		
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組み交流・有識者からの助言の場の提供</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題の探究</li> </ul>
11月	(10/19) 社会参画力育成指導実践研究連絡会④		
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践校への訪問指導② (11/5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の有識者と関わる機会の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同和問題 (部落差別) に関する学習 (ゲストティーチャー) (11/5)</li> <li>・人権学習 (ゲストティーチャー) (11/17)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアミーティング支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアミーティング支援</li> <li>・調査活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO、企業等とのアイデアミーティング (生徒が考えたアイデアについて NPO、企業等からアドバイスを得る) (12/8)</li> <li>・実社会の調査活動 (地域課題の探究) (12/18)</li> <li>・校内コンテスト開催 学校代表選出</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーラム準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデア発表支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーラムでの発表準備</li> </ul>
2月	(2/12)フォーラム		
3月	(2/25)社会参画力育成指導実践研究連絡会⑤		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページアップ</li> <li>・実践校への訪問指導③</li> <li>・次年度の取り組み案への指導助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取り組みに対する指導助言</li> <li>・次年度の取り組み案への指導助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取り組みの振り返り</li> <li>・次年度の社会科、関連教科、自治的な活動を相互に関連させた指導計画の立案</li> </ul>

#### 4. 実践研究の実施体制



## 5. 教育委員会等として取り組んだ内容

### 【大阪府教育庁】

府教育庁は、令和2年度に、2025年日本国際博覧会協会との協働により開発した「教育プログラム」(※)を実践校が地域や生徒の実態に合わせてアレンジし、「持続可能な社会の創り手」の育成につながるような取り組みを展開できるよう支援した。

令和3年度、大阪府内で実践校を含めて小中学校合わせて27校がこの「教育プログラム」を活用した取り組みを進めた。実践校が他校の取り組みを参考として実践研究を進めるとともに取り組みを普及するため、実践校を含める16校の中学校が参加する年間5回の「社会参画力育成指導実践研究連絡会」を実施し、各校における実践を交流する機会を設定した。実践交流では、生徒が主体的に地域や社会における課題を見出し、課題解決のためのアイデアを考えるための指導方法の工夫や、企業とのアイデアミーティングの持ち方やプレゼンテーション発表における指導方法の工夫等について交流した。好事例を共有し、それぞれの学校における実践において参考となる情報交換ができる機会となった。

また、8月に実施した「社会参画力育成指導実践研究連絡会③」では、大阪大学社会ソリューションイニシアティブの伊藤 武志 教授に、「SDGsの学習を通じたアイデアの実現に向けて」というテーマで講演をしていただいた。実社会について学ぶ際、実体験や自分で考えたことを行動にうつすなど、経験から学び、実感することが大切であること。「誰一人取り残さず、いのち輝く」社会づくりに挑むためには、そのためのアイデアを大切にし、あきらめず、何かをやってみるといことが大切であるというお話をいただき、実践校の取り組みにおいて、生徒が主体的に学ぶ機会を設定することや指導方法の工夫につながった。

2月に実施した「フォーラム」では、大阪大学社会ソリューションイニシアティブの堂目 卓生 教授に、「すべてのいのち輝く社会をめざして」というテーマで、実践校をはじめとするフォーラム参加校の生徒による「すべてのいのちが輝くアイデア」のプレゼンテーションに対して、まとめの講評をいただいた。世界や日本における様々な社会の課題を解決するためには、SDGsの「誰一人取り残さない社会」をイメージすることが大切であること。そして、そのイメージした社会を実現するために、何をしなければならないかを考えることが大切であり、与えられた場において、仲間をつくり、実験し、行動して見ることが社会全体への動きにつながるという助言をいただいた。発表されたアイデアを実現するために、「できる」か「できない」かではなく、「する」か「しない」であるとまとめていただき、実践校の次年度以降の取り組みにつながる内容であった。「フォーラム」で発表されたプレゼンテーションの内容は府ホームページに掲載し、取り組みの内容を発信し、普及を図った。

実践校への訪問では、計画書に沿った取組みの進捗状況を確認し、「社会参画力育成指導実践研究連絡会」で得た取組みのヒントを効果的に取り入れて実践を進められるよう指導助言を行った。また、富田林市教育委員会と連携し、12月のアイデアミーティングの場をコーディネートし、生徒たちが考えた「すべてのいのちが輝くアイデア」のブラッシュアップにつながるよう支援した。

(※) 2025 年日本国際博覧会協会「教育プログラム」

万博や SDGs（持続可能な開発目標）について知り、地域や社会の課題を自分と関連づけて考え、その課題の解決に向けて、探究活動を展開する内容。簡単には答えの出ない問いに向けて挑戦する力や、他者と協働する力、社会の課題を見つけ具体的に行動する力等をつけることをねらいとしている。

【富田林市教育委員会】

大阪府教育庁と連携しながら、「社会参画力育成指導実践研究連絡会」（年 5 回）を通して包括的に実践校を支援した。本連絡会には担当指導主事等が毎回出席し、実践研究の担当教員と共に情報共有をし、実践校における取り組みに還元できるよう指導助言を行った。連絡会で得た情報や、学識の方の講演の内容等を活かし、実践校の取り組みを推進していけるよう、定期的に学校を訪問しながら実践研究の進捗を確認し、教育課程の実施状況についても指導助言を行った。

特に、アンケートで「地域や社会をよくするためになにをすべきかを考えることがありますか」「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいると思いますか」という項目を成果指標として設定していることから、取り組みは、生徒の主体性を引き出し、意欲的に取り組んでいけるようなものとなるよう、指導方法や内容について助言を行った。

また、実践校を富田林市 SDG s パートナースHIP 制度に登録することで、SDG s に係る取り組みを首長部局と連携して支援するとともに、アイデアミーティングに参加してもらえ企業や団体を斡旋した。その結果、地域の人権協議会の方や地域の企業の方、様々な業種の異なる企業の方に協力を得ることができた。アイデアミーティングにおいては、異なるそれぞれの観点から、生徒の学びが深まるアドバイスをいただき、アイデアのブラッシュアップにつなげることができた。

その後、校内コンテストを経て実践校の代表を選定し、実践校の取り組みを発信する機会である、大阪府が主催する「フォーラム」への参加に向けて支援を行った。代表グループのアイデアだけでなく、実践校の取り組みによって考え出された他のグループの「すべてのいのちが輝くアイデア」についても、市の WEB ページ等に公開するなどして、成果を市域へと発信した。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

### 【類型 I】

#### 実践校名：富田林市立第一中学校

#### 研究主題

「すべてのいのちが輝くアイデア」

－自分たちのアイデアを実現し、一人も取り残さない未来社会を創る－

#### 主題設定の理由

実践校では、大阪府全体の子どもたちと同様、①「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えること」や②「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組む」という点において課題が見られる。

※実践校 ① 32.2%（府 35.2% 全国 39.4%）

② 70.2%（府 72.8% 全国 74.8%）

（全国学力・学習状況調査 生徒質問紙 平成 31 年度実施）

これをふまえ、本研究において開発する学習プログラムは、生徒が主体的に地域や社会の課題を見出し、その解決に向けて誰と協働して何を実現していくのかについて、自分たちのアイデアを探究的に考えていく内容とする。また、アイデアをまとめるだけでなく、そのアイデアを実行する生徒会活動等の自治的な活動につながるように工夫する。

実践校の自治体・地域には、子ども食堂の運営や NPO による反差別の取り組み等、貧困や人権課題の解決に向けた取り組みを長年積み重ねてきた実績がある。実践校はこのような実績を基盤にして、社会科や技術家庭科、総合的な学習及び特別活動等を通して、世界的観点の SDGs を知ることから始め、段階をふまえて地域の課題に焦点を当て、生徒自身がその主体として具体的に課題の解決に向けて取り組むことを考える、学習プログラムの開発と実践を進める。

具体的には、「『すべてのいのちが輝くアイデア』－自分たちのアイデアを実現し、一人も取り残さない未来社会を創る－」をテーマとし、どのようなアイデアであればその課題を解決していくことができるのか、そのアイデアを実現するためには誰の協力が必要か、持続可能の観点から協力者にメリットはあるのか、自分たちには何ができるのかなどを考え、校内での発表会を行う。

学習プログラムは、「SDGs についての知識を得る」→「実社会をリサーチする」→「SDGs 達成をめざすアイデアを考える」→「アイデア実現に向けて、企業・団体等と意見交流をする」→「アイデア実現のための提案をプレゼンする」という段階的な学習展開及び、「世界的観点」から「身近な地域的観点」への探究的学習対象の段階的な移行により、生徒が

主体的に社会の課題を見出し、必要感をもって解決策や持続可能な社会となるためのアイデアを考えていくものとする。その際、始めから課題を考えるのではなく、小学校で学んできた地域の良さや強みを振り返り、その良さや強みを妨げようとしていることは何かや、逆に伸ばしていくためにはどうすればいいかなどを考えさせるような学習指導を行う。

また、協力者を得ることや資金面などの実現可能性を追求することにより、より実践（自治的な活動）につなげていけるよう、スモールステップで指導していくことで、生徒自身が課題解決のための行動者となるようにしていきたい。

その中で実現可能性が高いとされたいくつかのアイデアには、生徒会執行部が中心となり学校全体での自治的な活動へとつなげていく。

生徒会執行部の取り組みが学校全体の取り組みにつながるように、企画・提案された複数の取り組み案に対して、全生徒の投票により自治的な活動の内容を決定する。取り組み状況については、月ごとに校内の掲示板等で知らせるとともに、生徒集会等で報告会を設定する。その中で取り組みに対する意見などを学級で話し合う機会を設定する。

自治的な活動においては生徒会執行部を中心に有志を募り、PTA や地域教育協議会と連携し、広報部門、経理部門、経営部門、企画部門、営業部門、在庫管理部門等を有する「会社組織」を立ち上げ、数年間を見通した持続可能な運営体制を構築する。例えば、災害時に避難所として防災拠点の一つとなる自分たちの学校の災害備蓄品や感染症防止用品等の購入、在庫管理、災害備蓄品のうち消費期限が近づいた食品類の「子ども食堂」等への寄付等、学校全体の生徒・家庭の協力のもと、持続可能な「会社組織」の運営をしていく。

このような取り組みを通して、生徒自身が主体的に持続可能な地域の社会づくりに参画していく力を育成していきたい。

生徒会活動における自治的な活動は、多くの学校で取り組まれているものの、生徒の主体的に社会に参画していく力の育成には、課題があることが上記アンケート結果から見取ることができる。自治的な活動と社会科や関連する教科においてつけたい力がどのように関わるのかを整理し、相互に関連させながら進められる学習プログラムを開発し、普及することは、他地域にとっても生徒の主体的な社会参画力の育成にあたって、有効であると考えられる。

## **概要**

SDGs の「誰一人取り残さない」という理念について知り、身近な社会的事象から課題を見出し、世界的観点に結び付けて課題の解決に向けたアイデアを考え、さらに自治的な活動と関連付けることにより、生徒自身が主体的に持続可能な地域の社会づくりに参画していく力を育む学習プログラムを開発する。

## **学習プログラムの主な内容**

- ① 『SDGs についての知識を得る』【社会科・1 時間】【総合的な学習の時間・1 時間】  
社会問題を SDGs の観点で考察し、生徒自身が、自らの関心で課題を設定し、解決への見通しをもつ。

- ② 『実社会をリサーチする』【社会科・4時間】  
 課題について様々な方法で情報を協働して収集する。
- ・地域社会への調査研究活動
  - ・インターネットによる情報収集
  - ・関係機関や専門家からの聞き取り調査
  - ・学校図書館等を活用した情報収集
- ③ 『SDGs 達成をめざすアイデアを考える』【社会科及び総合的な学習の時間・2時間】  
 課題について考察し、妥当性、効果、実現可能性などの観点から、友人や教員と議論しながら、効果的な課題解決策を構想する。
- ④ 『アイデア実現に向けて、企業・団体等と意見交流をする』  
 【社会科及び総合的な学習の時間・2時間】  
 アイデアミーティングで、構想した解決策について、地域人材や企業の方々から実現の可能性等について意見をいただき、生徒が考えたアイデアやプレゼンの内容をブラッシュアップする。
- ⑤ 『アイデア実現のための提案をプレゼンする』  
 【社会科及び総合的な学習の時間・2時間】  
 アイデアをプレゼンし合い、生徒同士の相互評価から校内で一番評価の高かったものを選出する。選出されたアイデアは大阪府主催の「フォーラム」において発表し、府域に発信する。

### 学習プログラムの成果の概要

- SDGs について知り、その課題の解決に向けた探究的な学習活動に取り組むことにより、地域や社会の課題を自分と関連づけながら主体的に考えることができるようになった。
- 学習のプログラムの中で、自分たちのアイデアのプレゼンテーションに取り組み、生徒自身が必要感をもって自らの考えを提案することができるようになった。
- 調査研究活動をはじめとする協働学習を通して、他者と関わりながら自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようになった。
- SDGs の達成をめざし、自分たちが日常生活において取り組むことができる内容は、それぞれの地域の状況に応じて多様であるが、開発する学習プログラムは、どのような観点で探究学習を進めていくのかを例示するものとしていく点において、他地域でも参考となると考える。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（内容）

【類型I】

実践校名：富田林市立第一中学校

学習活動① SDGs についての知識を得る

社会問題をSDGsの観点で考察し、生徒自身が、自らの関心で課題を設定し、解決への見通しをもつ。

○ 本学習活動は、社会科の1年生地理分野を中心に、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を見だし追究できるよう、グローバル化する国際社会において、人類全体で取り組まなければならない課題（資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題）に関わって、自作のワークシートを活用し、総合的な学習の時間の学習内容と関連づけながら、学習をすすめた。

とりわけ、ヨーロッパ州における持続可能な社会づくりや、南アメリカ州における貧困問題については、経済活動との関係性を理解できるよう、ワークシートを工夫した。



【社会科のワークシート】

【教育プログラムのワークシート】



総合的な学習の時間では、「教育プログラム」を活用し、大阪・関西万博に興味関心を引きつけながらSDGsの理念について学び、自分たちでSDGsの達成をめざすアイデアを生み出す学習に取り組んだ。

「教育プログラム」は生徒が社会科の学習内容を基盤にしなが、SDGsに示されている課題に対して、自身で解決への見通しをもつことができるよう編集されており、本学習プログラムの補助教材として役立てた。また、本教材は学習段階に応じて生徒が自身の考えを記入できるワークシート形式で構成されており、生徒が自身の学びを振り返り、成長を実感できるづくりが特徴的であったので、活用して学習をすすめた。



## 学習活動② 実社会をリサーチする

課題について様々な方法で情報を協働して収集する。

- 本学習活動は、社会科の地理的分野における、日本の諸地域における課題について学習する内容の中で「地域の結び付き」「持続可能性」などに関わって、地域学習、調査活動につなげた。まず、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念について知り、世界的観点から課題の解決に向けたアイデアを身近な地域での行動に引きつけながら考えるため、グローバルな観点とローカルな観点の両面で調査活動をすすめた。

調査活動は学習班を編制し、生徒同士が協働しながらすすめられるように計画した。主に、国際社会に関する情報の収集は、令和3年度より配付された1人1台タブレット端末を活用しながら調査をすすめ、個々に収集した情報はタブレットの通信機能を活用して共有した。



【タブレット端末を活用した調査活動】

一方、地域への調査活動については、実践校の校区には子ども食堂や反差別の取り組みを進めるNPO等が複数存在し、貧困や人権課題の解決に長年にわたり取り組んできた歴史があることから、実際に施設に訪問し、聞き取り調査を中心に進める予定であった。しかしながら、今年度については、コロナ禍ということもあり十分に訪問調査活動を行うことができなかつたため、学校司書に参考書籍等をリファレンスしてもらったことで補いながら、活動をすすめた。

さらに、調査活動の一環として、同じ中学生が地域の課題解決に向けて取り組む姿に触れ、課題意識を共有することを目的として、他市の中学校で実施された「反差別集会」に参加した。生徒たちは、同世代が抱く様々な地域への「思い」に共感することができるようになった。



【「反差別集会」への参加の様子】

「反差別集会」に参加後は、大和川の付け替え工事に携わった人や食肉加工業に携わる人の思いについて学ぶフィールドワークを実施した。生徒たちは、身近な地域の歴史や差別問題に向き合い、「誰一人取り残さない」というSDGsの観点で自分の考えを整理し、深めることができた。

### 学習活動③ SDGs 達成をめざすアイデアを考える

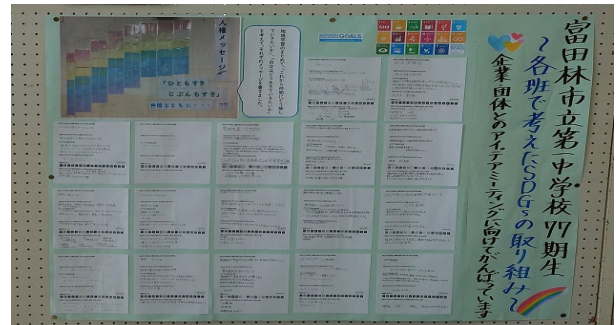
課題について考察し、妥当性、効果、実現可能性などの観点から、友人や教員と議論しながら、効果的な課題解決策を構想する。

- 本学習活動は、社会科の地理的分野における、世界各地で顕在化している地球的課題について、地球環境問題や資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題などの学習に関わって、その課題解決のために自分たちの身近な地域や日常生活において取り組めることを考え、説明したり、議論したりする学習活動をすすめた。

これまでの調査活動をもとに、生徒たちは自分たちのアイデアを実現し、一人も取り残さない未来社会を創るために、「すべてのいのちが輝くアイデア」をテーマとし、どのようなアイデアであればその課題を解決していくことができるのか、そのアイデアを実現するためには誰の協力が必要なのか、持続可能性の観点から協力者にメリットはあるのか、自分たちには何ができるのかなどを要点とし、学習班で協働しながら課題解決策を構想し、アイデアをまとめた。

具体的なアイデアの提案については、先のねらいを明確化させるために、「取り上げた課題はSDGsの17の目標のうち、どの目標に関連するものなのか」「アイデアを実行することのメリット」「実現するために協力してほしい企業や団体」などを明記できるフォーマットを作成してまとめた。

また、アイデアを身近な地域での行動に引きつけながら考えることもねらいの一つとしているため、地域の方々にも自分たちの活動を知っていただけるよう、地域の人権集会で「すべてのいのちが輝くアイデア」の素案を公開し、取り組みの内容や自分たちの考えを発信した。



【各クラスで考えたアイデアの掲示物】

#### 学習活動④ アイデア実現に向けて、企業・団体等と意見交流をする

アイデアミーティングで、構想した解決策について、地域人材や企業の方々から実現の可能性等について意見をいただき、生徒が考えたアイデアやプレゼンの内容をブラッシュアップする。

- 本学習活動は、社会科の地理的分野における、世界各地で顕在化している地球的課題について、地球環境問題や資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題などの学習に関わって、それぞれの課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する機会を設定した。本学習活動は、その課題解決のために自分たちの身近な地域や日常生活において取り組めることを考え、提案を表現する際、「どのようなプレゼンテーションにしたら伝わりやすいか」「企業等ではどのような取り組みがされているのか」等を考える学習活動に結びつけたものである。

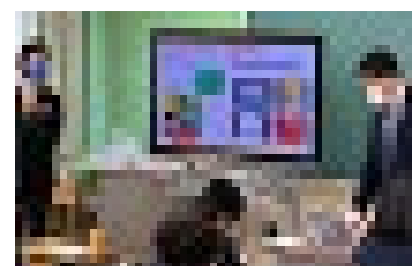
アイデアミーティングでは自分たちが構想した「すべてのいのちが輝くアイデア」を「アイデアミーティングシート」にまとめて、事前にアドバイスしていただける地域の方や企業の方に送付した。

当日、参加していただいた地域の方や企業の方からは、それぞれの観点から、協力者を得ることや資金面などの実現可能性等についてアドバイスをいただいた。また、地域や企業で実際に行われているSDGsに関連する取り組みについても紹介していただき、生徒たちは自分たちのアイデアをブラッシュアップし、実現に向けて大きく前進させることができた。

さらに、生徒たちはアイデアを提案する際のプレゼンテーションの仕方についても指導していただき、効果的な資料の活用方法や伝わりやすいプレゼンテーションの方法についても、新たな知識を得ることができた。



【アイデアミーティングシート】



【アイデアミーティングの様子】

## 学習活動⑤ アイデア実現のための提案をプレゼンする

アイデアをプレゼンし合い、生徒同士の相互評価から校内で一番評価の高かったものを選出する。選出されたアイデアは大阪府主催の「フォーラム」において発表し、府域に発信する。

- 本学習活動は、社会科の地理的分野における、世界各地で顕在化している地球的課題について、地球環境問題や資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題などの学習に関わって、調査活動など探究的な学習活動に取り組み、それぞれの課題について多面的・多角的に考察、構想し、学びを深めてきた。これらの課題を解決するために自分たちの身近な地域や日常生活において取り組めることを考え、提案を発信するという学習活動に結びつけたものである。生徒同士でアイデアをプレゼンし合う学習活動は、自分たちで取り組んでいけることを見出す上で、ヒントを多く得られる効果的な活動であった。

本事業は生徒が考えた「すべてのいのちが輝くアイデア」を自治的な活動として展開することで、生徒自身が主体的に持続可能な地域の社会づくりに参画していく力を育むことに重点をおいている。

そのため、各学習班で生み出されたアイデアは、「校内コンテス

ト（一中 EXPO 学年発表会）」でプレゼンされ、アイデアのおもしろさや実現の可能性、地域社会や困っている人々への効果などの観点で、学年の全生徒が評価し、一番高い評価を得たアイデアは次年度、自治的な活動として展開される。さらに、本発表会で出されたアイデアは大阪府教育庁主催の「フォーラム」で富田林市代表として府域に発信した。さらに富田林市は内閣府より「SDGs 未来都市」に指定されていることもあり、本学習プログラムの成果を今後、市の WEB ページを通して発信していく予定である。



【校内コンテスト「一中 EXPO 学年発表会」の様子】

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（成果と課題）

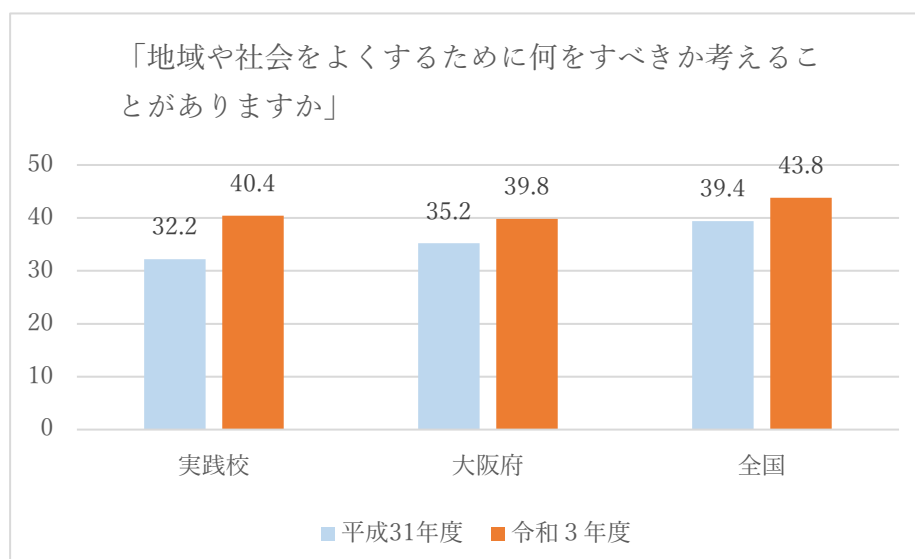
## 【類型 I】

## 実践校名:富田林市立第一中学校

## 成果

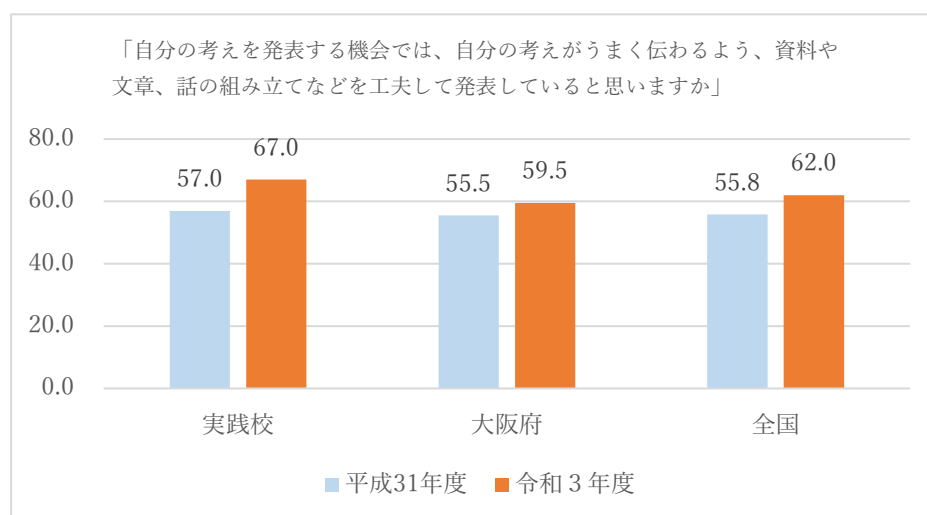
(児童生徒の変容等)

- SDGs について知り、地域や社会の課題を自分と関連づけながら考え、その課題の解決に向けた探究的な学習活動に取り組むことにより、①「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」において 8.2 ポイントの上昇が見られた。



(全国学力・学習状況調査 生徒質問紙 平成 31 年度・令和 3 年度実施)

- 学習の過程で、自分たちのアイデアのプレゼンに取り組むことで、生徒自身が必要感をもって自らの考えを提案する活動に重点をおいたことにより「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していると思いますか」において 10 ポイントの上昇が見られた。



(全国学力・学習状況調査 生徒質問紙 平成 31 年度・令和 3 年度実施)

- 生徒の意識や態度の変容に関する教職員アンケートの結果からは、「生徒は学校の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の項目が5点満点で平均4.13点と一番高い評価であった。

アンケート項目	平均得点
生徒は、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えていますか	3.87
生徒は、課題の解決に向けて自ら考え、自ら取り組んでいますか	3.75
生徒は、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか	3.87
生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していると思いますか	4.00
生徒は、学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	4.13

事業実施後教職員意識調査（令和4年2月実施）

（取り組みの工夫）

- 本事業はSDGsの「誰一人取り残さない」という理念について知り、世界的観点から課題の解決に向けたアイデアを身近な地域での行動に引きつけながら考えることに力点を置いて取り組んできた。事業を実施する上で、府及び市教育委員会との連携だけでなく、自治体との連携を深めたことが生徒の学習活動の幅を広げた。具体的に、アイデアミーティングでは富田林市とSDGsパートナーシップ登録をしている企業を市から紹介していただいたり、実践校自体が富田林市とパートナーシップ登録することにより本校の取り組みを市のWEBページ等を通じて市域に発信したりすることができるようになった。



**3. 富田林市SDGsパートナーシップ制度**

本制度は、SDGsの達成に向けた取組を地域一体となって推進するため、市内でSDGsの活動や普及啓発に取り組んでいる企業・団体等のみなさまを本市独自で「富田林市SDGsパートナー」として登録し、活動事例の紹介やパートナー間の連携を促進し、市内におけるSDGsを推進することを目的としています。

(1) 登録の対象  
富田林市内に事業所などを置く、企業・団体・教育機関・特定非営利活動法人など

(2) 登録の要件  
SDGsの達成に向けた活動に取り組む、または取り組む意欲のある企業・団体等のうち、次の①～④のすべてに該当することが登録の要件です。

①SDGsの達成に向けて、代表者の考えが宣言されていること。  
⇒SDGs宣言書を提出

②SDGsの達成に向けた具体的な活動内容を報告していること。  
⇒富田林市SDGsパートナー登録申請書(活動状況報告書)を提出

③法令等を遵守しており、かつ、過去に重大な法令等の違反がないこと。

④暴力団又は暴力団員と密接な関係を有していないこと。

【富田林市と実践校のSDGsパートナーシップ】

- 学習の過程で、課題を見通し発見する段階では、生徒の活動をより地域と密接につなげるために、自分たちと同じように、地域の課題解決に向け取り組んでいる中学校との交流を調査研究活動の一環として組み込んだ。他市の中学校で実施された「反差

別集会」には実践校の他、多くの学校が参加しており、他校の人権課題に対する報告や、ミーティングを通して、生徒たちは、「自分たちの地域だからこそ解決していかなくてはならない課題」に真摯に向き合えるようになった。また、コロナ禍ということもあり、予定していた生徒全員の訪問による調査活動を実施することができなかったが、本集会への参加者が報告ニュースを作成し、学年全体に共有することができた。

### 【反差別集会参加の報告ニュース】

#### 【反差別集会への参加の様子】



**反差別集会 2021 報告 ニュース**

12月18日、桂中学校で「地区ウララガレイム反差別集会 2021」が開催されました。今から約20年前に桂中学校(八尾市)校区で「差別廃棄」が掲げられて以来、私たちは「自分達差別をなくしたい」という思いをみんなに伝えよう」と卒業生や解放陣のメンバーが「おもいとどけ隊」を解散し「人権ウララ」にも呼ばれて2003年に初めて開催されました。今年も18日目の集会でした。

**参加校** ~ 地区ウララガレイムの部 ~  
 ・シェンズ (北山小:舞台)  
 ・ピカピカ (北山小:舞台)  
 ・アトキホウジ (桂小:映画)  
 ・飛龍隊 (桂中:映像)  
 ・民族クラブ (桂中:舞台)  
 ・オアニス (八尾北高:映像)  
 (今年も桂中学校校区内の民族クラブなども参加しました。)

~ 反差別集会 2021 ~  
 ・桂中学校解放陣  
 ・上三島中学校生  
 ・成法中学校  
 ・高美中学校  
 ・富田林立第一中学校  
 ・志紀中学校  
 ・高安小中学校 (後期)  
 ・桂中学校 (生徒会、民族、くまの)

~ スローガン ~  
 誰もが安心して過ごせるように、  
 ~everyone has a special character~

(他地域でも参考となると考えられる点)

- 学校において実施する自治的な活動は、社会科をはじめとする教科等の学習において学ぶ内容と結び付け、相互に関連させることにより、生徒の主体性や学習意欲の向上につながることで、ワークシートの内容やアンケート結果から見取ることができた。社会科等の教科学習において学んだことを生かすことができるような自治的な活動であること、また逆に自治的な活動の経験が教科での学びを深めることにつながると、生徒は学ぶ意義、活動する意義を明確にして取り組むことができると考える。

学習指導要領では、「未来社会を切り拓くための資質・能力」の育成が求められている。開発する学習プログラムは、子どもが実社会とつながる機会を設定し、自分たちのアイデアを見出し、発信する機会を設定しており、このような資質・能力の育成につながるものであり、実践校だけでなく他地域でも参考となるものであると考える。

## 課題

- 本実践研究は、中学校1年生、2年生における2年間の学習プログラムの開発となっている。社会科の「地理的分野」「歴史的分野」で学習する内容と関連付けて、SDGsについて考え、地域や社会の課題解決を目標として社会参画する力を育成していくものである。このような力は、3年生で取り扱う「公民的分野」、とりわけ「現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う」内容に大きく関わる。3年生で「公民的分野」について学ぶ際、

この1年生、2年生で取り組んだ学習プログラムとどのように効果的に関連させて学習をすすめていくのか、指導の工夫が求められることが課題だと考えている。

3年生時の学びを深め、主体的に進学や就職といった卒業後の進路選択をできる力を育成していきたいと考えている。

また、開発する学習プログラムは社会科だけでなく、他の教科と相互的に関連させながら進めていくものである。社会科の指導計画と他の教科の指導計画及び実施する自治的な活動の計画を関連させながら取り組みを進めていかなければならない。この点においては今後、さらに研究を進めなくてはならない部分であると考えている。